

私の留学時代

森棟公夫

2004年5月19日

私の研究というテーマで書いてくれと言う依頼でしたが、留学していたときの話などになりました。しかし、読者は卒業生が多いから、こういう原稿もよいでしょう。

私は46年生まれで、戦後っ子のはしりですが、大学院の博士課程に入ってからスタンフォードに留学しました。アメリカに留学したのは、やはり戦後生まれであることが遠因になっているのではないのでしょうか。もっとも、当時の日本におけるアメリカの評価は、現在のイラクにおけるアメリカみたいなものと理解していただければよいでしょう。しかし、我々の分野ではアメリカが研究を行う場所であり、組織だって教育をしている場所であり、他の国は比較にならないほど弱小でした。それに、留学すると言っても1ドル360円の時で、奨学金を貰い授業料を免除して貰わないと、留学できるはずはありません。イギリスも経済学は優れていたのですが、外国人に奨学金を出す国は、アメリカしかありませんでした。授業料は当時でも2500ドルくらいだったと記憶していますが、同級生の初任給が5万円くらいの時で、年収分が授業料という勘定です。ちなみに現在は3万5千ドルくらいでしょうか。やはり初任給の年収分ですか。

留学は何とか決まったものの、当時は生の英語を聞く機会がほとんどありませんでした。私はお金がないから会話学校には行かず、テープで勉強しました。東京なら、アメリカ軍用のラジオ、FENで練習できる、などという話を羨ましく聞いたものです。サンフランシスコの通関で色々質問された時は、これが本当の英語かと思いました。大学は寮生活で始まりましたが、当時の日本と比べてなんと豊かなのかという驚きばかりでした。シャワーなら好きなときに使える、夏でも早朝の寒い時間は暖房が入る、など一々驚いたものです。日本人同士で「寮の部屋で湯が出てすごい」という話をした事を思い出します。日本での生活は、言ってみればエアコンのない吉田寮に住んでいたようなものでしたから。キャンパスの広大さ、建物のすばらしさ、そして、夏は毎日青空が広がり、寒流のため朝夕は涼しい風が流れ込む気候、今でもあの突然の生活の変化は懐かしく思い出します。サンフランシスコは霧で有名ですが、車で一時間走ったスタンフォードは霧は少なく、日差しが強くなります。最初の夏は英語の集中コースで勉強しました。英語はできないものの勉強は退屈で、仲間とよく大学のプールに行って泳ぎました。学生はいつでも泳げるというのも、日本とは大違いでした。大学のamenityの比較も入り、日米格差が倍増して感じられたということです。現在とは比較になりません。

秋から学期が始まり、突然大きなプレッシャーの下で勉強を始めました。会話力のなさ、英語を読むスピードのなさ、競争相手はアメリカ人の優秀な学生ですから、どうしようもなかったですね。勉強時間だけで競っているようなもので、マクロ、ミクロ、計量のcomp(1年終了のためのcomprehensive exam.)をなんとかパスして、ぼろぼろになって次の夏を迎えました。compで5、6人の同級生は消えていきました。しかし、アメリカ

人の場合、パスしなくても適正がないから別の人生を探すという感じで、悲壮感はありませんでした。3年終わる頃には、自然淘汰のように半分に減りました。日本の大学院は、途中の試験が無いから継続はできますが、逆に不幸を招いているかもしれません。

2年目以後は自分の専門に近いコースをとり、1年目と同じで宿題と試験ばかりやっていたのですが、1年目のプレッシャーは無く、気持ちの上で楽でした。私は経済だけでなく統計学部のコースを取っていたので、こういう勉強が3年目の半ばまで続き、後は論文を書いて日本に帰ってきたわけです。私は統計学の修士号ももっています。

経済研究所に75年から01年まで居て自由にさせて貰いましたから、途中でイリノイ大学で2年間、母校のスタンフォードで1年、そして西オーストラリア大学で1年教えました。教えるのはどこも大変でした。しかし、委員会が簡単ですから、授業以外は完全に研究に集中できました。Publish or perish (論文書けなきゃ死んじゃう)の世界ですから、meetingはすぐ終わります。また、いわゆるteaching evaluation(学生が行う授業評価)は、何処でもありました。思い返すと、30年前のスタンフォード時代にこれが始まり、当初は大騒ぎしたのを思い出します。授業に来ていない学生が突然現れたりする、とか。teaching evaluationは、担当教師ではなく秘書が来てやらないといけない、とか。教師だと評価シートをのぞき込む！、教室から出て教務に渡すまでに、シートの枚数が減る！、評価がひどく悪いとtenureに影響します。何処でも聞く、学生に授業が評価できるか、という話もさんざんしました。でも、おかしい学生も居ますが、多くの学生はまともに評価しようとします。楽勝コースが評価されるのは聞いたことが無い。日本のように、受講生の何倍かが試験を受け、ほぼ全員単位を取るという現象はあり得ない。学生の評価は総じて真面目です。逆に、俺の授業の値打ちが学生風情に分かるか、という態度もおかしなものです。日本では一部の大学で始まったくらいですが、大騒ぎすることではない。

この話、実は、アメリカ型の評価システムを述べています。いかがでしょうか。